



フェイジョア

44編はコラの子の詩、マスキール(瞑想)です。詩人は最初に「先祖」が語り伝えたこと、「先祖」から聞いてきたことを思い起こしながら歌います。苗のような民を、神が、ご自身の腕の力によって得た土地に、植え付けられた。民自身が剣、腕を振るって領土を得たのではない。我々は神に選ばれ、祝福され、導かれた民という伝統に生きてきた、それが神の望みであり、民はそれに従ってきたと言うのです。

ところが今や、民は窮地に立たされている。領土から追い払われ、領土を失なって、彷徨っていると訴えます。民が勝利を得るのも、失うのも神によるのだと言います。

神よ、あなたこそわたしの王。ヤコブが勝利を得るように定めてください。あなたに頼って敵を攻め、我らに立ち向かう者を御名に頼って踏みじらせてください(44:5) と、助けを求めて祈ります。19 節以下は民の苦しみ、このような苦境へと落ちた嘆き、神への恨みのような言葉が続きます。神が見放されたため、屈辱、凌辱、略奪を受け、敗走し、離散せざるを得なかった。人々は我々を値打ちのないものとして、嘲り、嘲笑し、侮り、誹り、罵り、報復する。しかし我々は神との契約を守り、神を忘れない。仮に異教の神にすぎれば神が知られるはずだ、と。信仰に立つ詩人は 主よ、奮い立ってください。なぜ、眠っておられるのですか。永久に我らを突き放しておくことなく／目覚めてください。なぜ、御顔を隠しておられるのですか。我らが貧しく、虐げられていることを／忘れてしまわれたのですか。我らの魂は塵に伏し／腹は地に着いたままです。立ち上がって、我らをお助けください。我らを贖い、あなたの慈しみを表してください。(44:24) と、神を奮起させようとする言葉をもって神の助けを求めています。自らが苦難に陥った原因、理由、根拠らしい言葉は全く記されていません。それが預言者とは違う、神殿で祭儀を行うレビ人の意識なのかもしれません。国を追われ、難民となった人々の、ひたすらに神の助けを求める祈りと言えるでしょう。「讚美歌 21」には 44 編を歌う讚美歌はありませんが、ジュネーブ詩編歌は美しい静かな賛歌です。

参照 <https://www.youtube.com/watch?v=KkR0a76Pveg&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=45&t=0s>

45 編もコラの子の詩で、端書きには「『ゆり』に合わせて。愛の歌。」とあります。「愛の歌」とは「王の結婚を祝う歌」です。古代では王の結婚は政略結婚が多く、人質、褒賞など、女性は財産の一部と見なされていたでしょうが、「愛」と記し、結婚は愛によると歌っているのは素晴らしいことです。

45 編ではまず、詩人は あなたは人の子らのだれよりも美しく／あなたの唇は優雅に語る。あなたはどこしえに神の祝福を受ける方(45:2) と最大の賛辞を花婿である王に捧げています。王であれば、すべてを支配する力と栄光を持っています。勇士よ、腰に剣を帯びよ。それはあなたの栄えと輝き。輝きを帯びて進め(45:4) と力の象徴である剣に言及しますが、王は 真実と謙虚と正義を駆って。右の手があなたに恐るべき力をもたらすように(45:5) と、神の右の手による支配、それは真実、謙虚、正義に立つことであると歌います。それを端的に歌っている箇所、神に従うことを愛し、逆らうことを憎むあなたに／神、あなたの神は油を注がれた／喜びの油を、あなたに結ばれた人々の前で(45:8) と、神によって油注がれた王であるとして、賛美しています。イスラエルの民は、この一点で王の権威を認めるのです。

香しい花婿の右に、金襴緞子で身を飾る王妃が花嫁として立ちます。この豪華絢爛さはソロモンの雅歌を思わせられます。この花嫁は あなたの民とあなたの父の家を忘れよ(45:11) と、過去と決別するよう命じられています。主イエスが「花婿と一緒にいるのに、婚礼の客は断食できるだろうか」(マルコ 2:19) と、ご自身を「花婿」に譬えられましたが、全く新たにされることを喜ぶとの意味合いも感じさせられます。「讚美歌 21」482「わが主イエス いとうるわし」が関連讚美歌とされています。

参照 <http://www.worldfolksong.com/hymn/fairest-lord-jesus.html> (下方にスクロールしてください)